注意！
■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報　第６号　畜　産

発行日　平成２４年８月３０日
発　行　岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編　集　中央農業改良普及センター　県域普及グループ　（電話　0197-68-4436）

「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「http://i-agri.net」 携帯電話からは「http://i-agri.net/agri/i/」

携帯電話用 QR コード

◆ **牧草地の除染作業について、放射性セシウムの牧草への吸収を抑制するため、耕起、砕土は丁寧に行うとともに、牧草の発芽・定着を高めるよう播種適期を考慮しながら進めましょう。**

◆ **暑熱の緩和対策（遮熱・送風、嗜好性の良い粗飼料による乾物摂取量の確保など）を継続し、牛の体力回復に努めましょう。**

◆ **トウモロコシの収穫が近くなってきました。サイロの清掃、機械の点検や資材を準備しましょう。**

１　牧草地の除染作業

（１）既に耕起作業が終了し、播種前の場合

ア　現在供給されている公社専用肥料だけでは、窒素やカリウム分の不足が想定される場合があるため、公社専用肥料のほかに、草地化成肥料が追加で供給されます。

イ　牧草の発芽・定着を高めるよう適期に播種ができるよう作業を進めて下さい。播種適期の目安は、県北や高標高地で８月中旬～8 月末、県央で８月中旬～9 月中旬、県南で８月中旬～9 月末です。

ウ　除草剤の播種日同日処理を行う場合の手順と留意点は次ぎのとおりです。

（ア）播種の約 30 日前に播種床の形成を完了します。

（イ）除草剤の散布は、他作物への飛散防止のため、風の強い日の散布は避け、専用ノズルや飛散防止カバーを使用して下さい。

（ウ）除草剤が乾いたのを確認し、その日か翌日には播種、施肥を行います。

（エ）種子と土壌を密着させ発芽率を高めるため、ローラ等で十分に鎮圧します。

除草剤の播種日同日処理で使用する除草剤

	10a あたり散布量	
	薬液量	希釈水量
ラウンドアップマックスロード	200～500ml	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ
タッチダウン iQ	200～500ml	25～100 ﾘｯﾄﾙ

（２）　これから除染作業を行う場合

ア　牧草の発芽・定着を高めるよう適期に播種できるよう作業を進めて下さい。

イ　耕起作業は、次の工程の砕土の精度に影響しますので、ルートマットが確実に土壌と混和できるよう十分な深さを確保して下さい。

ウ　炭カルなどの土改材を施用します。また、前出の（１）のアのとおり追加で草地化成肥料が供給されるので、併せて施肥して下さい。

エ　砕土は、放射性セシウムを土壌に吸着させ、牧草への移行を抑制するためにも、ルートマットが確実に土壌と混和するように丁寧に行います。

オ　砕土以降の作業は、（１）と同じですが、鎮圧のための作業機械が限定される、時期的に標準作業工程の実施が難しい、更新後の雑草繁茂が懸念されるなどの場合は、振興局農政部・農林振興センター、農業改良普及センターにご相談下さい。

２　暑熱の緩和対策の継続

暑さが続いています。暑熱の影響は、涼しくなる秋以降 2 ヶ月から 6 ヶ月まで及ぶという報告もあります。暑熱の緩和対策を継続し、牛の体力回復に努めましょう。

（１）体感温度を下げる

体感温度を低下させるため、遮熱（屋根散水、西日遮光など）、送風（遮蔽物撤去、換気扇向き調整や設置場所変更など）、牛体の毛刈りなどを行います。

（２）乾物摂取量と栄養を確保する

ア　新鮮な水を十分量供給します（貯水量の確保、水槽のこまめな掃除）。

イ　嗜好性の良い粗飼料の給与、涼しい時間帯の増給、エサ押しを励行します。

ウ　アシドーシス予防のため、配合飼料給与量の多い泌乳牛では、重曹（目安 100～200g/日・頭）を給与します。

エ　ミネラル要求量も満たします。乾乳後期牛を除き、鉱塩を切らさない、リン酸カルシウムなどを約１割増やします。

（３）疾病等を防ぐ、早めに対処する

ア　分娩直前直後で、左けん部がややくぼむ、採食量が低下しつつある、分娩後極端にやせた牛には、グリセリンなどの糖質を補給します。

イ　乳房炎の感染を防ぐため、換気を良くする、牛床の敷料をこまめに足すなど、牛床の乾燥に努めます。体力が低下しやすい分娩直前から泌乳最盛期の牛にビタミンを補給することも有効です。

ウ　暑熱時のルーメンアシドーシスやストール等で佇立時間が増加することなどにより、秋以降に蹄底潰瘍などの蹄病が増加する場合があります。前出の「体感温度を下げる」、「良質粗飼料の給与」、「重曹の給与」に努めるとともに、歩様や寝起きの様子をよく観察し、必要に応じて削蹄と治療を依頼します。

エ　発情を発現させ受胎を高めるため、前出の「体感温度を下げる」、「乾物摂取量と栄養を確保する」を継続します。また発情兆候が極端に弱い、発情周期が一定しないなど異常な場合は、早めに治療を依頼しましょう。

発情の見逃しを防ぐため、繁殖カレンダー等で発情予定の牛を確認してから牛舎作業に入ります。また、横臥時に粘液を確認できることが多いので、就寝前に牛舎を一回りすることも発情発見に有効です。

３　トウモロコシの収穫

（１）適期収穫

栄養収量が最大となり、サイレージ調製に最適な水分約 70%となる「黄熟期」で収穫します。黄熟期は「ミルクライン」で確認します。雌穂の中程を折って、子実の黄色い部分と乳白色の部分の境目がミルクラインです。黄熟期は、このミルクラインが概ね 50%に達したころです。

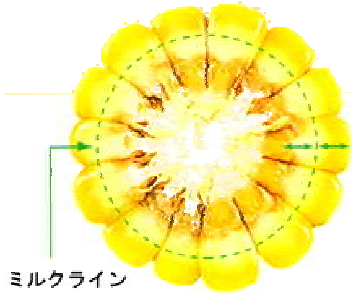
（２）サイロの大きさ

バンカーやスタックサイロの大きさは、二次発酵予防のための適切な取り出し量も考えて決定します。例えば、スタックサイロで 1 日 600kg（40 頭×15kg）給与する場合、サイロ密度を 600kg/m^3 とすると、暑い時の取り出し量は 45cm 以上必要なので、断面積は 2.2m^2 以下となります。

（600kg/日÷600kg/m3÷0.45m/日＝2.2m^2）

気候別サイレージ取り出し量目安

	取り出し量(cm/日)	
	暑い時	寒い時
バンカー	30 以上	20 以上
スタック	45 以上	30 以上



（３）サイレージ調製

詰めこみ密度を高め、嫌気状態を早く作ることに留意します。

ア　ハーベスタの刃は予めよく研磨しておきます。一般的な切断長は約 1cm です。破砕処理で収穫する場合は、切断長 19mm、ローラ間隙 5mm（黄熟期）に設定します。

イ　サイロ内の空気を排除し詰めこみ密度を高めるため、十分に踏圧します。バンカーやスタックサイロは、タワーサイロに比べて高さが低いため、原料の自重による加圧は期待できませんので、十分な踏圧が必要です。人が歩いても足跡が残らない程度まで踏み込みます（目安は 700kg/m^3 以上）。

ウ　詰め込み作業後速やかにサイロを密封して嫌気状態を作り、乳酸発酵を促します。密封作業は詰めこみ日に終了させるのが原則ですが、2 日に渡る時は、1 日目の終了時に表面にギ酸などを散布、

仮被覆して品質の劣化を防ぎます。

エ　気密性サイロでは発生するガスによる事故の恐れがあるので、詰め込み翌日以降の作業時は、必ず換気してからサイロに入ってください。

オ　刈り遅れや霜にあたったトウモロコシは、枯葉が多く、水分含量も低下し二次発酵しやすくなるので、プロピオン酸やギ酸など添加剤の使用を検討します。

次号は 9 月 27 日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。